

資料-1 <渋滞損失時間の削減>

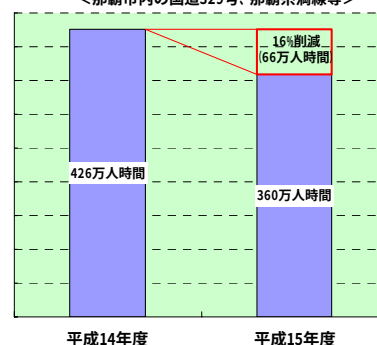
- 那覇市内の国道 329 号や那覇糸満線等の渋滞損失時間が 16%減少。(平成 14 年度 426 万人時間／年→平成 15 年度 360 万人時間／年)

渋滞損失時間の削減

単位:万人時間／年

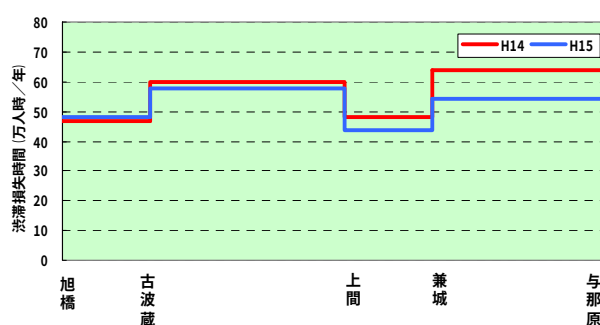
路線名	平成14年度	平成15年度	削減率
国道329号	218	204	-7%
Aルート	208	156	-25%
合計	426	360	-16%

渋滞損失時間の変化
<那覇市内の国道329号、那覇糸満線等>

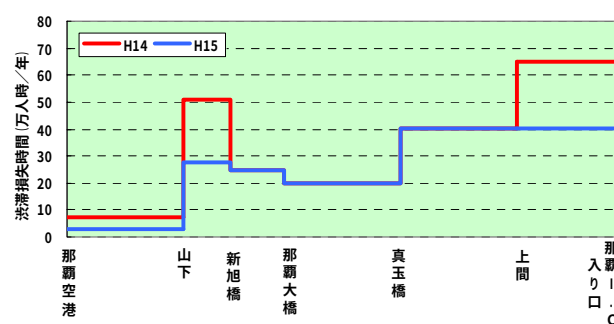


資料:南部国道事務所データ

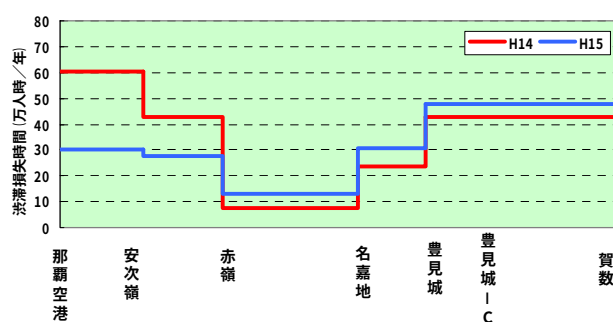
国道329号(旭橋～与那原)の渋滞損失時間の変化



Aルート(那覇空港～那覇IC入口)の渋滞損失時間の変化

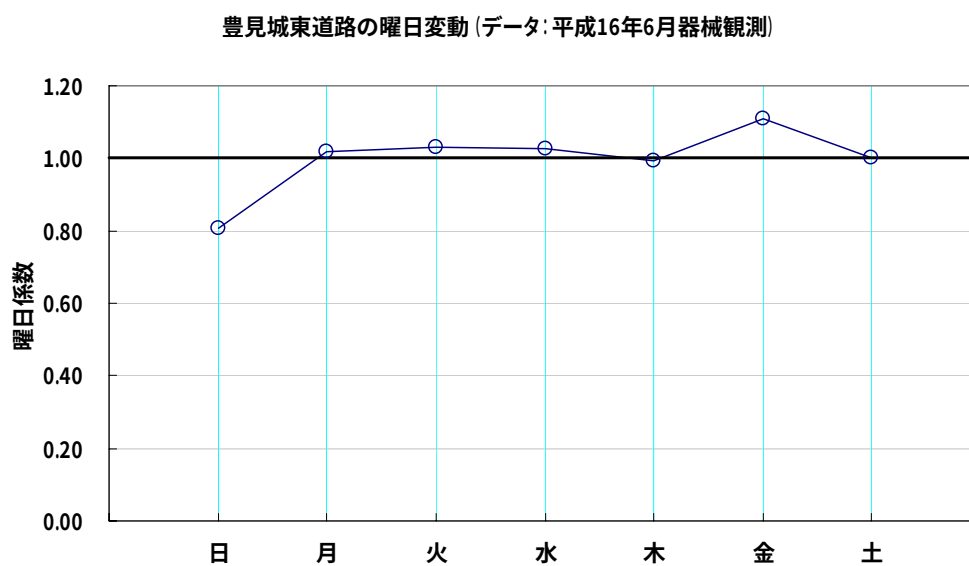
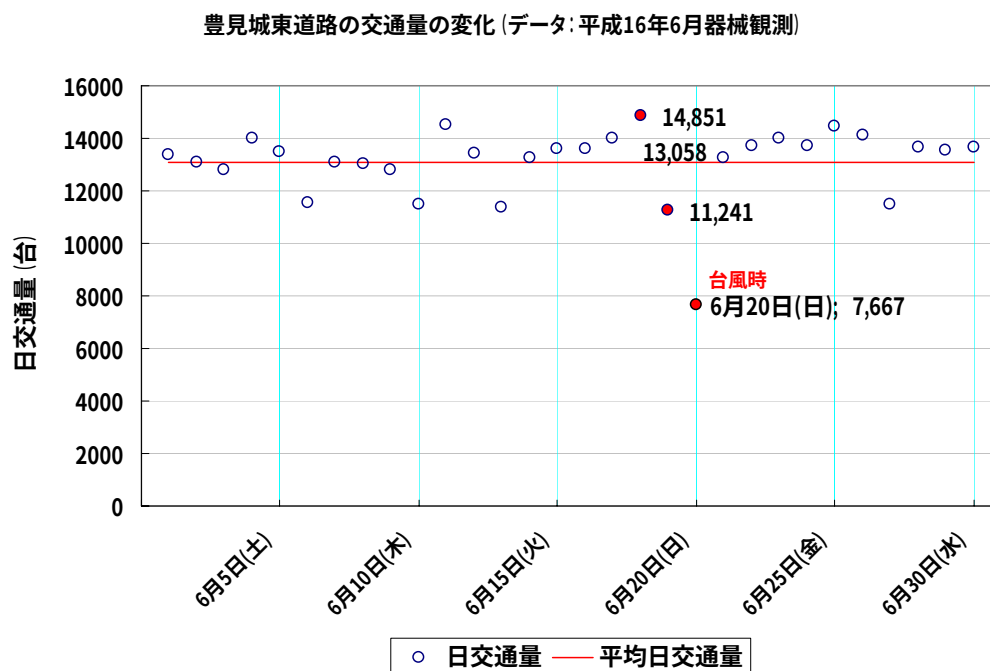


Bルート(那覇空港～豊見城～賀数)の渋滞損失時間の変化



資料－2 ＜豊見城東道路の交通量＞

- 今回の暫定供用区間の平成 16 年 6 月の交通量の推移をみると、日曜日が少なく週末金曜日に多い。
- 6 月の月平均日交通量は 13,058 台。

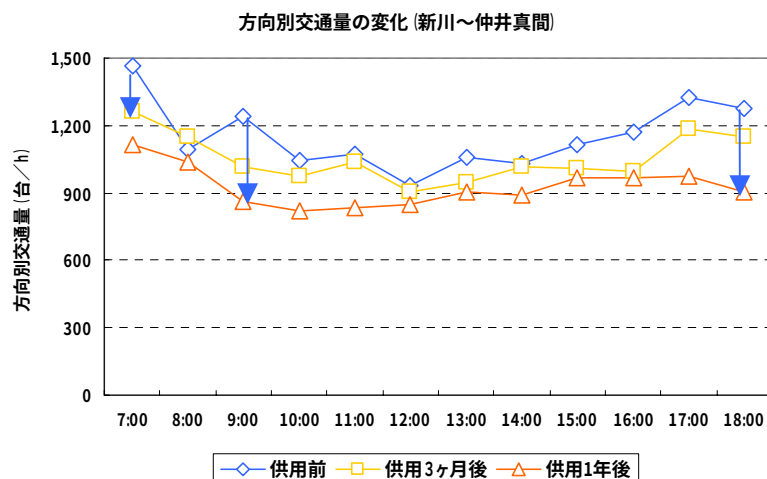


注) (曜日係数)=(曜日別平均日交通量)/(月平均日交通量)

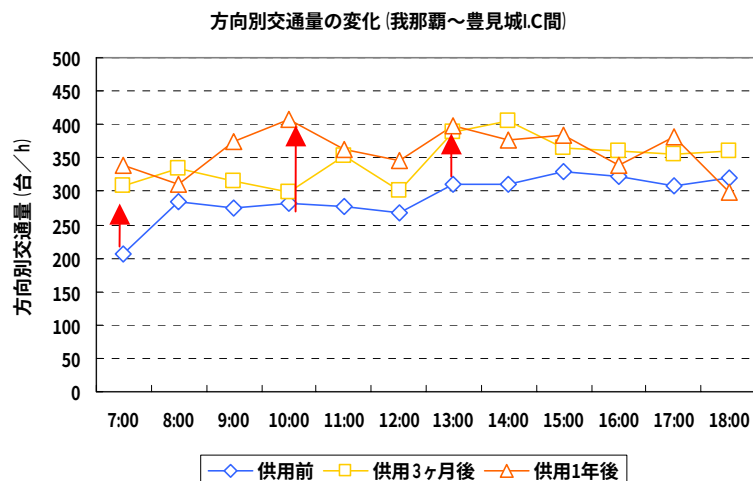
資料－3 ＜方向別交通量の時間帯変化＞

- 上間交差点や豊見城交差点における交通量の変化は時間帯別にみても顕著に現れている。
- 下のグラフに示すように、那覇 I.C に近い上間交差点の時間交通量は全時間帯で減少し、逆に豊見城 I.C に近い豊見城交差点の時間交通量は増加している。

＜上間交差点＞

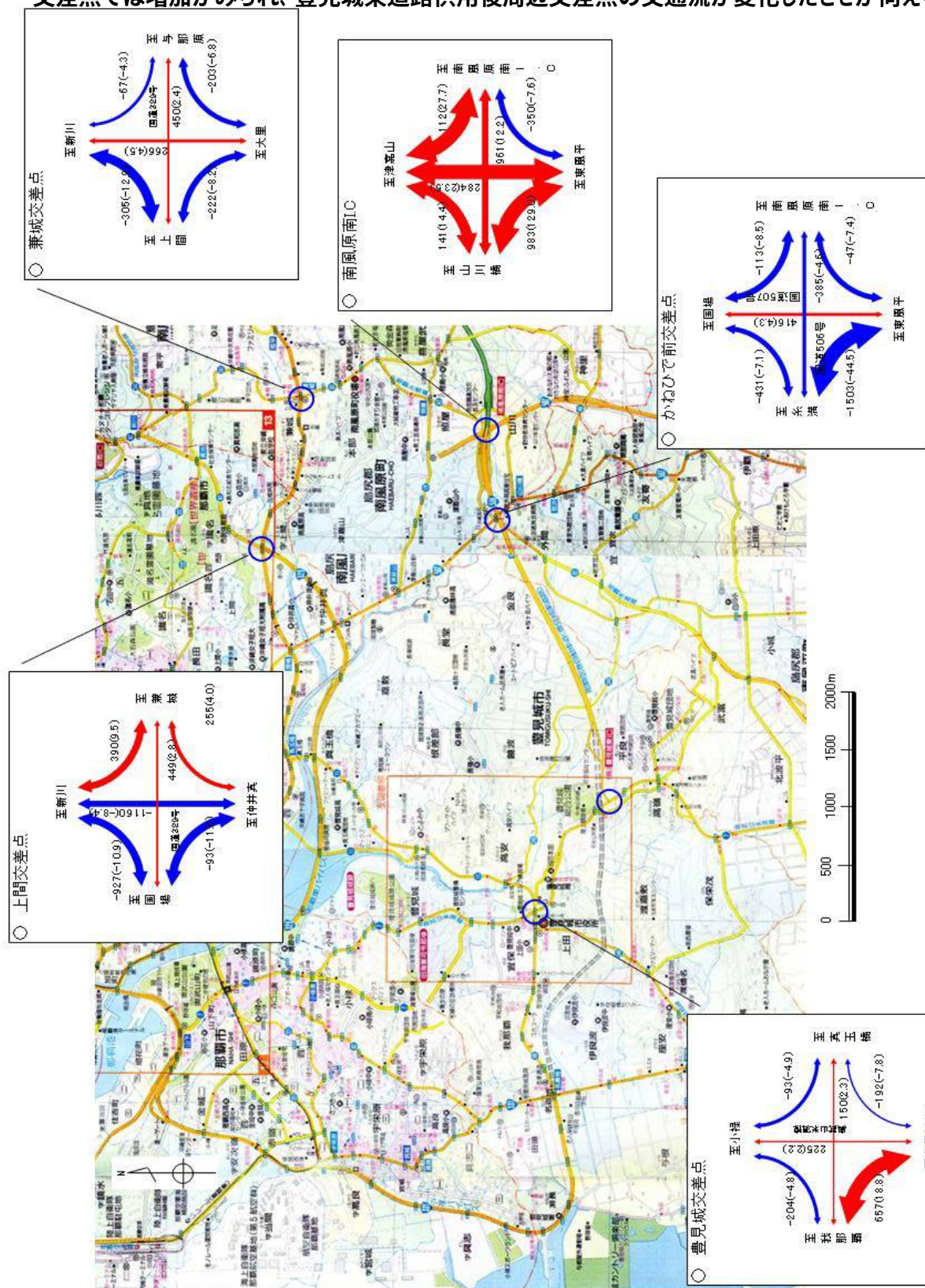


＜豊見城交差点＞



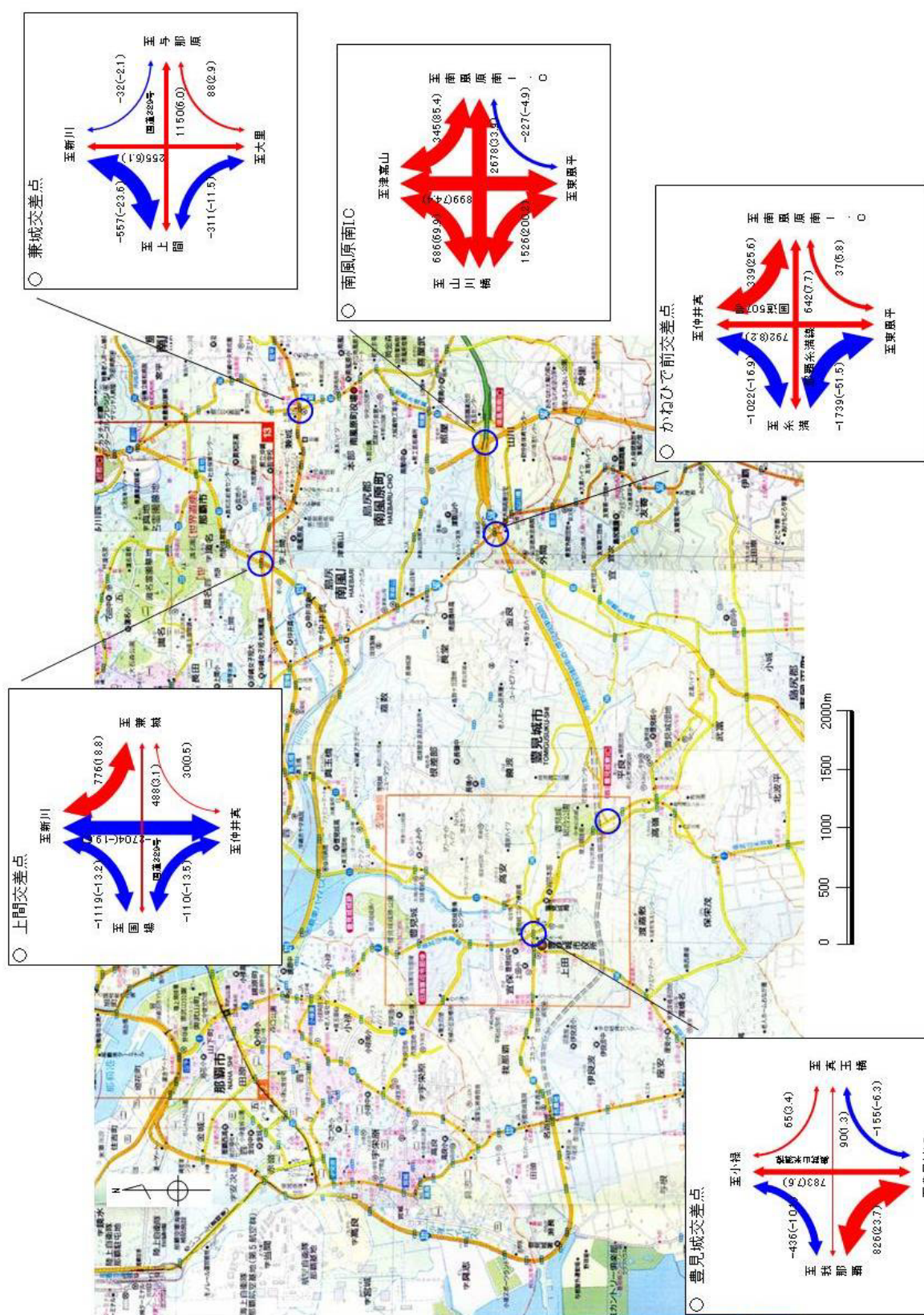
資料-4 <交差点の昼12時間交通量の変化>

- 供用後3ヶ月後の調査で上間、兼城、かねひで前交差点の交通量は減少し、南風原南 I.C、豊見城交差点では増加がみられ、豊見城東道路供用後周辺交差点の交通流が変化したことが伺える。



周辺道路 (交差点) の交通量の変化 (開通3ヶ月後 / 開通前)

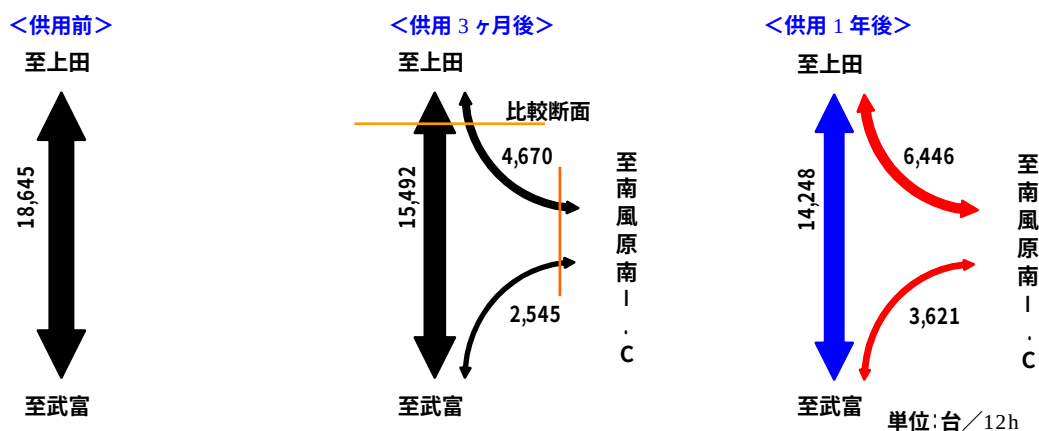
○ 供用後1年後、上間、兼城、かねひで前交差点の交通量の減少傾向、南風原 I.C、豊見城交差点の交通量の増加傾向がみられる。



周辺道路 (交差点) の交通量の変化 (開通1年後 / 開通前)

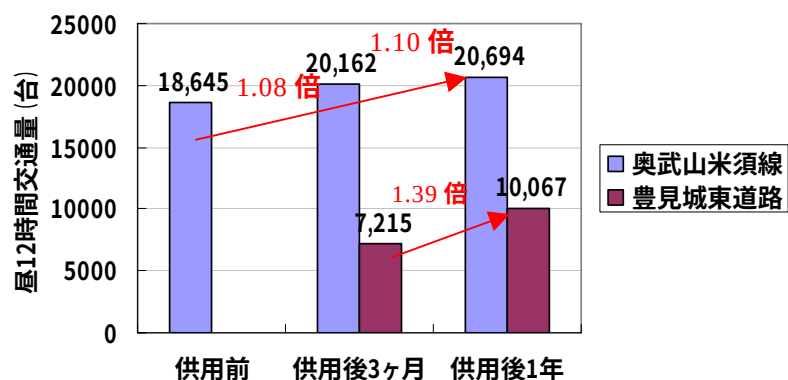
- 奥武山米須線の断面交通量は供用3ヶ月後 1.08 倍、1年後は 1.10 倍に増加している。
- 那覇空港自動車道の断面交通量も供用3ヶ月後に比べて1年後は 1.39 倍に増加している。

<豊見城 I.C 入口交差点交通量図>



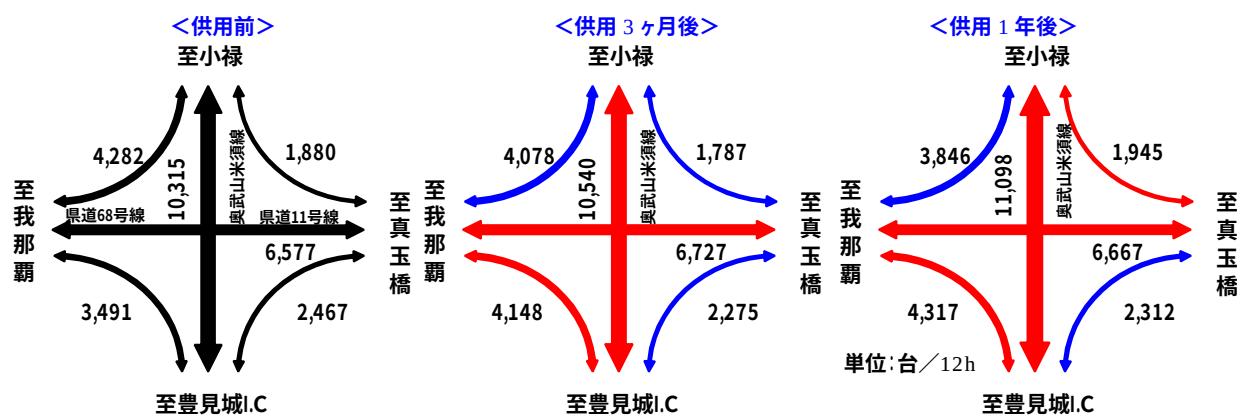
注) 調査日 供用前: H15.4.23.水, 3ヶ月後: H15.7.2.水, 1年後: H16.6.22.火

豊見城 I.C 交差点の断面交通量の変化

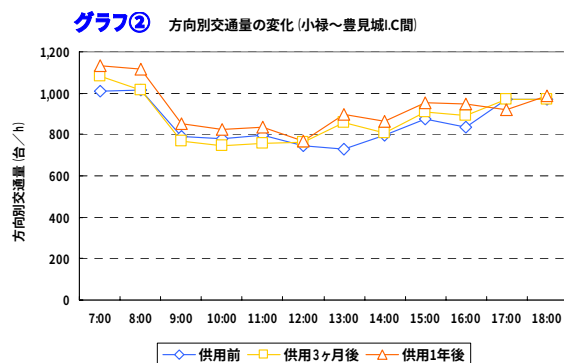
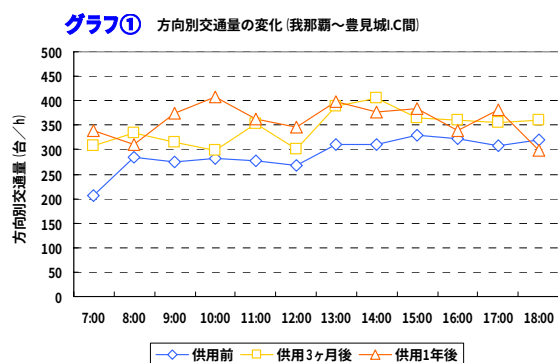


- 県道 68 号線我那覇～奥武山米須線豊見城 I.C 間の交通量は、供用1年後 1.24 倍に増加 (3,491 台/12h→4,317 台/12h) している。
- この交通量の増加については下のグラフ①に示すように時間帯別にみても顕著である。

<豊見城交差点の交通量図>



注) 供用前と比べて交通量が増加した方向は赤色、減少した方向は青色で表現。

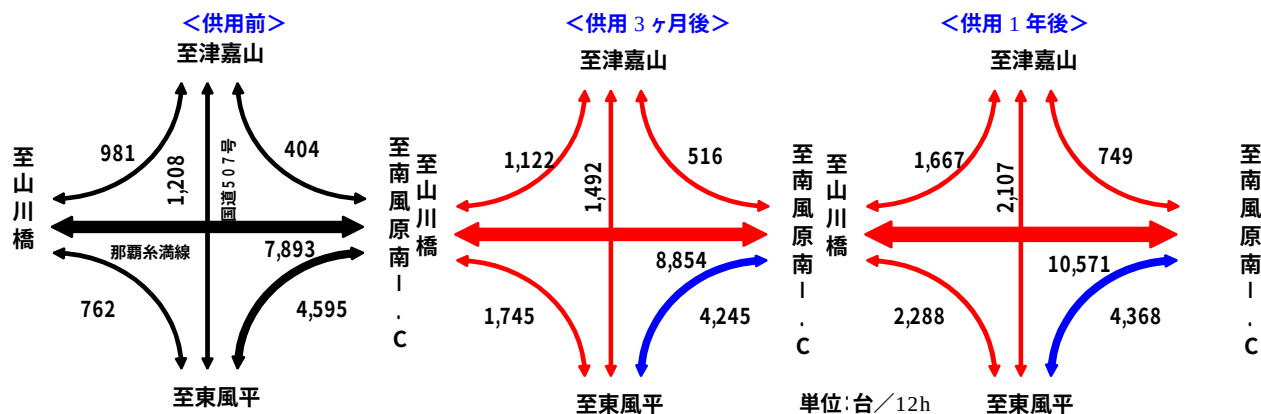


注) 調査日 供用前: H15.4.23.水, 3ヶ月後: H15.7.2.水, 1年後: H16.6.22.火

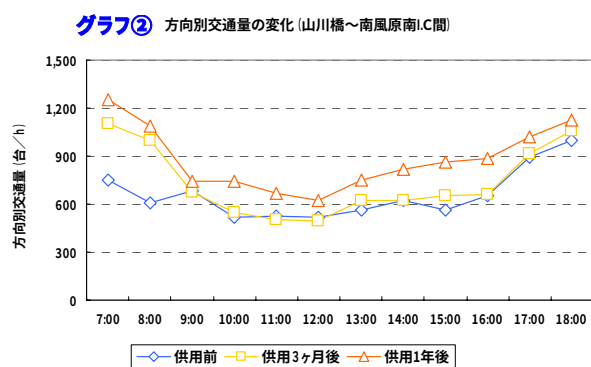
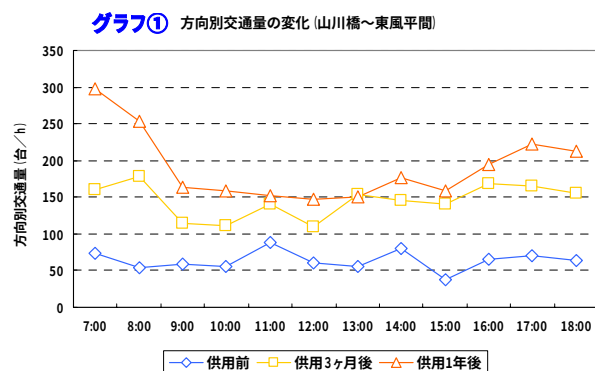


- 国道 507 号東風平～那覇系満線山川橋間の交通量は供用前に比べて1年後は 3 倍 (762 台/12h→2,288 台/12h) に増加し、下のグラフ①に示すように時間帯別にみても顕著である。
- 那覇系満線山川橋～南風原南 I.C 間の交通量も1年後は 1.32 倍 (7,993 台/12h→10,571 台/12h) に増加し、下のグラフ②に示すように時間帯別にみても顕著である。

<南風原南 I.C 入口交差点交通量図>



注) 供用前と比べて交通量が増加した方向は赤色、減少した方向は青色で表現。

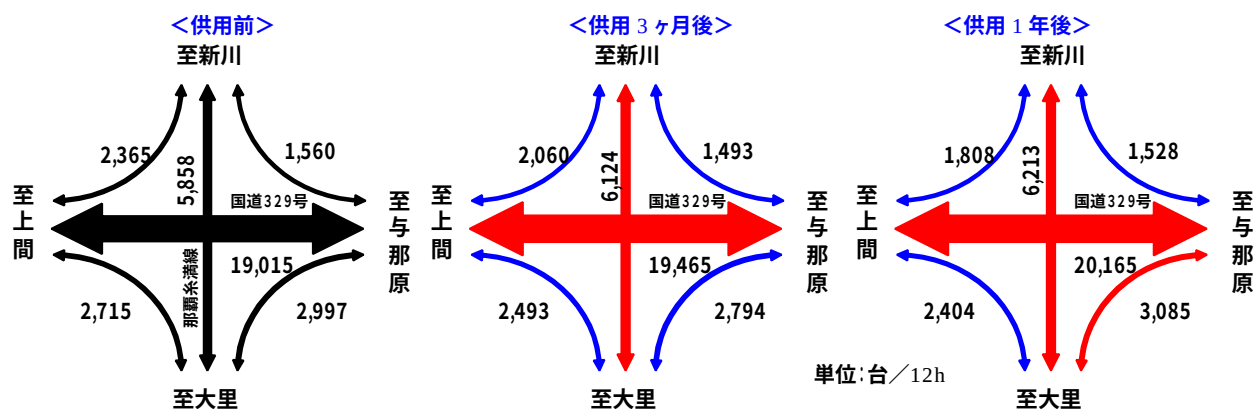


注) 調査日 供用前: H15.4.23.水, 3ヶ月後: H15.7.2.水, 1年後: H16.6.22.火



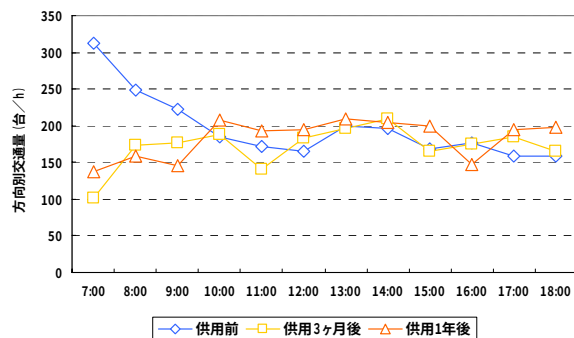
- 国道329号上間～那覇糸満線新川間の交通量は減少し、下のグラフ①に示すように朝の7時から9時台で顕著である。

<兼城交差点の交通量図>

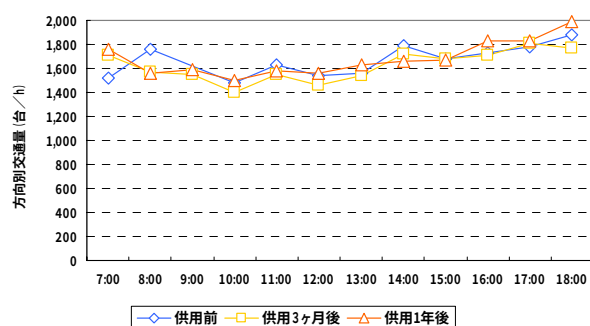


注) 供用前と比べて交通量が増加した方向は赤色、減少した方向は青色で表現。

グラフ① 方向別交通量の変化(上間～新川間)



グラフ② 方向別交通量の変化(与那原～上間間)

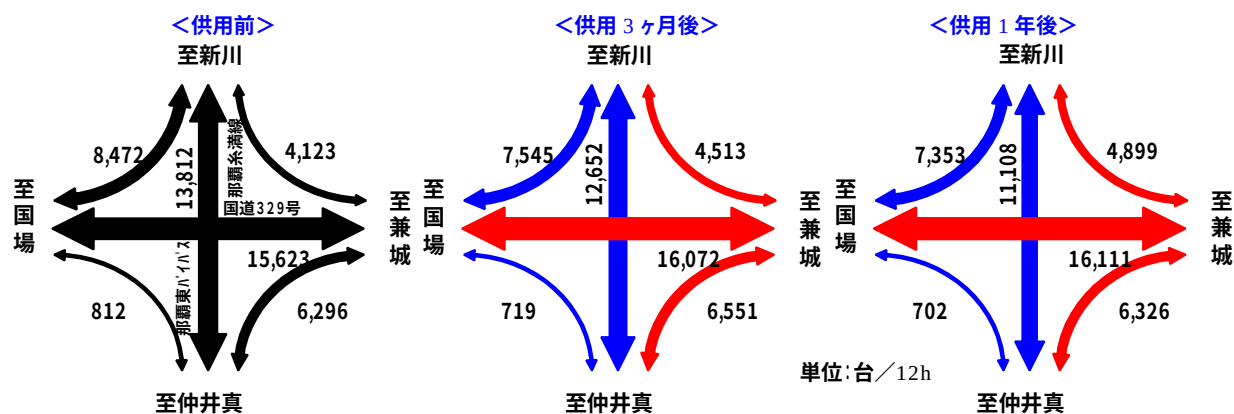


注) 調査日 供用前: H15.4.23.水, 3ヶ月後: H15.7.2.水, 1年後: H16.6.22.火

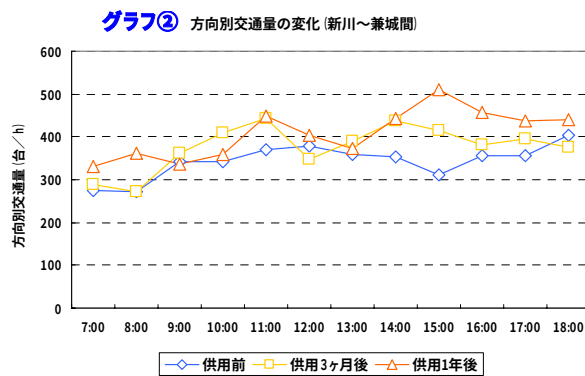
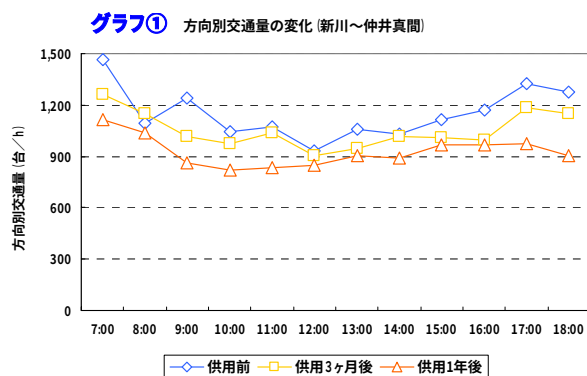


- 那覇東バイパス仲井真～那覇糸満線新川間の交通量が減少し、下のグラフ①に示すように時間帯別にみても顕著である。

<上間交差点の交通量図>



注) 供用前と比べて交通量が増加した方向は赤色、減少した方向は青色で表現。



注) 調査日 供用前: H15.4.23.水, 3ヶ月後: H15.7.2.水, 1年後: H16.6.22.火

